



愛鷹分校だより

学校HP 学校 Instagram



令和7年 11月 25日発行

先日実施した学校運営協議会で、愛鷹分校の特色はワーク地域であることが改めて確認されました。生徒は毎週金曜日に複数のグループに分かれて、近隣の企業で終日、作業学習に取り組んでいます。開校以来の取組で、受け入れ先の企業の皆様に多大なる御支援と御協力をいただいています。この取組にさらに磨きをかけて、沼津城北高校との共生共育に並ぶ大きな柱にしていきたいと考えています。今後も保護者や地域の皆様に関心をもっていただけるように、ホームページ、SNS、お便り等で、生徒の学びの様子を発信していきます。応援よろしくお願いします。(副校長)

<学習の様子>

<1年生職場見学>

10月31日(金)、1年生は株式会社イズラシと株式会社アイリス(A型B型事業所)を見学させていただきました。施設内を見学し、担当の方から働く上で大切なこととお話いただきました。卒業後に就職した先輩からは仕事内容や休日の過ごし方など、いろいろなお話を伺うことで、将来についてイメージを膨らませたり、働く人について知ったりする機会となりました。今後の学校生活に生かしていきます。(1年部 島村)



<2年生静岡学習～静岡の歴史と平和～>

2年生は10月9日(木)に静岡市での校外学習に出掛け、静岡浅間神社や三保の松原などの名所に足を運びました。学習の大きな目的の一つは平和学習でした。静岡銀行本店では、焼夷弾から逃れた人々が避難した地下室を見学したり、三保では特攻艇『震洋』の格納庫後を見学したりしました。平和の大切さを改めて学ぶ機会となりました。(2年部 中澤)



<PTA活動>

10月17日(金)伊藤ハム米久ホールディングス株式会社にて PTA 事業所見学会を行いました。当日は14名の保護者が参加しました。

障害者雇用の取組についての説明や3名の卒業生による講話をしていただきました。社内の見学では、宅配物の仕分けや、工場内で商品のピッキングの様子を見させていただきました。また、働きやすい職場づくりのために、社員によるジョブコーチや障害者職業生活相談員による研修を受講しているというお話をしていただきました。卒業生の講話では、働くために必要な力や普段の生活で気を付けていることを、それぞれ話してもらい、有意義な時間を過ごすことができました。(進路指導主事 米山)



<学校運営協議会の取り組み>

学校運営協議会は、地域と共にある学校づくりを実現するための仕組みで、愛鷹分校は門池地区連合自治会長の福田様をはじめとして、福祉機関、ワーク地域先の企業、PTA、学校等から委員を構成し、今年度は4回予定されています。10月28日(火)第3回学校運営協議会を行いました。

今回は、8月に行われた第2回学校運営協議会の振り返りや学校運営について話し合いが行われました。特に愛鷹分校の特色である「ワーク地域(作業学習)」について活発な意見が交わされました。ワーク地域は、地域の企業様の御協力があるものであるが、お互いにWin-Winの関係を築いていきたいという意見や、保護者からはワーク工房(作業学習)で作った製品をワーク地域先で販売するなど、学習が点から線になることへの感謝が述べられました。今後の学校運営に生かしていきたいと考えています。

(副校長)

今年度、ワーク地域でお世話になっている企業様(敬称略)

1年生：矢崎エナジーシステム株式会社(製造)、割烹沼津ぼんどーる

(清掃)株式会社中央電工(清掃)、オギノ沼津インター店(販売)

2年生：株式会社秋山機器(製造)

沼津・湯河原温泉 万葉の湯 沼津(サービス)

3年生：介護老人保健施設 ヒルズかどいけ(清掃・介護)、デイサービス ルンルン(清掃・介護)、

グループホーム ふれあい岡宮(清掃・介護)、介護付き老人ホーム ウェルビーイング岡宮(清掃・介護)、マックスバリュ岡宮店(販売)



<沼津城北高校 大胡田先生との学習>

昨年度に引き続き、沼津城北高校教諭の大胡田先生をお招きして、10月10日の「目の愛護デー」にちなみ、視覚(見てわかる)について考える学習を行いました。

視覚とは、自分にとって必要で、知りたい情報を見ることでわかることです。知りたい情報を得るためには、視覚以外にも、聴覚(きく)、触覚(さわる)、臭覚(かぐ)、味覚(あじわう)などありますが、「百聞は一見に如かず」というように視覚から得られる情報は大きいです。

2・3年生は、ババ抜きを行いました。見えにくい役(薄いアイマスク着用)、見えない役(アイマスク着用)、サポート役の3~4人で「どうしたら、みんなと一緒に、楽しく、ババ抜きができるのか」を点字付きのランプを使い、遊び慣れたゲームを通してそれぞれの立場で考えました。

大胡田先生からは、「全部助けてもらおうと、一緒に参加している実感がない、何も助けてもらわないと何が起きているのかわからない。参加するのをやめようと思うこともあるけど、本当は、困っていることだけ助けてもらうのがうれしい。そのために、自分は、困っていることを伝えるようにしています。」とお話してくださいました。その話を聞き、生徒たちからは、「ゲームで目が見えない人がいても「違うゲームしよう。」ではなく工夫して楽しくゲームをすることが大切と思いました。」など、気づきがあったようです。

(養護教諭 三森)

